

2型糖尿病患者への退院指導

同志社女子大学
丸山莉央

患者背景

- 6/17 血糖コントロールのため入院
88歳 男性
- 妻と二人暮らし
- 既往歴：2型糖尿病(2005年 検診で指摘)
脂質異常症
腰部脊柱管狭窄症
大動脈解離
前立腺肥大症



持参薬

当院処方

グリメピリド3mg	1錠	朝食後	
ジャディアンズ錠10mg	2.5錠	朝食後	
ボグリボースOD錠0.3mg	3錠	毎食直前	→
リベルサス錠7mg	1錠	起床時	→
ランソプラゾールOD錠15mg	1錠	朝食後	
25mgアリナミンF糖衣錠	3錠	毎食後	
ロスバスタチン錠2.5mg	1錠	朝食後	
ビタメジン配合カプセルB25	2cp	朝夕食後	
エナラプリル錠2.5	1錠	朝食後	
ビオスリー配合散	3g	毎食後	→

12錠(4日分)
2錠(2日分)

他院処方

シロドシンOD錠4mg	2錠	朝夕食後	→
デュタステリドcp0.5mg	1錠	朝食後	→

72錠(36日分)
18錠(18日分)

6/11受診時7日分処方あり、残薬は0日or1日?

糖尿病治療薬

※ 一包化 朝昼夕 各5包(5日分)

6/17 初回指導

- ★ S: 薬を1日ずつまとめるのを(妻と)一緒にしています
そこから自分で管理しています
- ★ O: 血糖コントロールのため入院
当院内科、明治橋病院の内服継続
【検査値】 6/17(入院時)
HbA1c : 12.7%、BUN : 28mg/dl、CRE : 0.94mg/dl、
AST : 71、ALT : 67 → AST,ALT高値
Uグルコース : +4、Uケトン : -、K : 5.2mmol/l
- ★ A: 理解力は多少あるが持参薬の残量と用法が一致しないため
ナース管理にすることをお伝えすると了承された。
- ★ P: グリメピリド、ボグリボースの副作用に肝障害があるため、改善が無ければ減量、中止を提案
ジャディアンス使用中のため、水分摂取量、尿路感染症疑いによる発熱、
ケトアシドーシスによる口渇、多尿の確認していく

6/18 2回目指導



S: 分かりました。



O: 6/18 夕からトレシーバ注フレックス4単位 開始

6/19 朝からグリメピリド中止

上記処方が変更となることを説明

グリメピリドを回収



看護師によるインスリン指導が始まることを説明

A: 返事もよく理解できているように感じる



P: 病院食に変わることで、血糖値が低下する可能性やインスリンが開始されることによる血糖値の変化をみていく

6/25 3回目指導

★ S: (エパルレスタットが処方されていること)しらんよ

★ O: 6/20 ボグリボースOD錠0.3mg 中止

6/23 トレシーバ注フレックスタッチ 夕食直前 6単位 中止、

6/24 ライゾデグ配合注 夕食直前 8単位に変更
しびれの訴えあり

6/25 エパルレスタット錠50mg 3錠 毎食前 開始

足のしびれについて、エパルレスタットが処方されていることを説明すると、しばらく痛みの様子見てみるとのこと

★ A: 薬剤名で説明するも理解が難しい様子なので、色や用法を付け加えて説明
することで理解できる

★ P: 自己注射の理解度を確認する

糖尿病療養指導の流れ

6/18 院内糖尿病教室に参加

6/19 DVD「糖尿病とは」視聴

6/20 インスリン指導
パンフレットを見ながら自己注射
DVD「合併症について」

6/21 DVD「食事療法」視聴

6/22 DVD「運動療法」視聴

6/23 DVD「薬物療法」視聴

6/24 低血糖について指導

6/28 シックデイについて指導

・糖尿病教室のことを覚えていなかった
インスリンの手技についてまずまずできている

・インスリンの自己注射したこと尋ねるも覚えていない
何度しても覚えられないと発言あり

・妻と一緒に手順書に沿って説明しながら行ってもらおう
・妻自身は手を動かしにくいため注射できない

・手順書を声に出して読んでから実施すると抜け
なくできる

・手順書を見ながら行うもできていない手技が
多々あり

・手順書みなくてもできている
妻にもインスリン注射の手順を覚えてもらい
見守りしていただくよう指導

看護師



糖尿病教室

- ・糖尿病とはなにか
- ・診断、経過観察のための検査
- ・糖尿病とうまく付き合う
- ・エネルギーの摂取量と食事

2024年度 糖尿病教室予定

6月
18日
火曜日

総論 (担当:和田昌幸医師)
基本的な食事療法
(担当:管理栄養士)

8月
20日
火曜日

糖尿病と合併症
(担当:山藤知宏医師)

10月
15日
火曜日

糖尿病の運動療法
(担当:理学療法士)

12月
17日
火曜日

中食・外食時のポイント
(担当:管理栄養士)

2月
18日
火曜日

シックデイ・災害
(担当:看護師)

4月
15日
火曜日

糖尿病の薬 (担当:薬剤師)
検査 (担当:臨床検査技師)

7/5退院指導

★ S: (低血糖のこと)知らん。飴玉なめたらいいんよね

★ O: 7/2~エパルレスタット錠50mg 3錠 毎食後に変更
コンプライアンスを保つうえで、食後服用への変更を
主治医に提案、変更となる

★ A: 入院前、服薬コンプライアンスはよくなかったため、
服用回数を減らし、妻とともに管理してもらう

★ P: 患者さん自身でインスリンを打てない状況の時、電
話で主治医に聞いていただくよう説明

グリメピリド、ボグリボース、ビタメジン中止となり
エパルレスタットが開始になったので
内服剤数合計12剤→10剤に減薬

退院時お薬手帳ラベル

退院時指導内容

入院中処方:

【処方①】

- (1)リベルサス錠7mg 1錠
起床時 14日分
- (2)ランソプラゾールOD錠15mg 1錠
朝食後 14日分
- (3)ジャディアンス錠10mg 2.5錠
朝食後 14日分
- (4)エナラプリルマレイン酸塩錠2.5mg 1錠
朝食後 14日分
- (5)ロスバスタチン錠2.5mg 1錠
朝食後 14日分
- (6)25mgアリナミンF糖衣錠 3錠
毎食後 14日分
- (7)ピオスリー配合散 3g
毎食後 14日分
- (8)エパルレスタット錠50mg 3錠
毎食後 14日分
- (9)ライゾデグ配合注 フレックスタッチ 1キット
医師の指示どおり
*夕食前10単位

【処方②】(明治橋病院継続分)

- (1)デュタステリドカプセル0.5mg 1カプセル
朝食後 7日分

指導内容:

- ◆入院期間: 2024/6/17~7/5
- 血糖コントロールのため入院
- 入院中の薬剤: 当院内科、明治橋病院処方継続服用
ケリルリド、ボグリボース、ヒタメジン中止
- 6/24~ ライゾデグ 開始
- 6/25~ エパルレスタット 開始
- 入院中の管理: Ns管理
- 7/5退院時: 処方①②、シロツシ(明治橋病院)

禁忌薬:

なし

副作用:

なし

調剤上の工夫/その他:

一包化

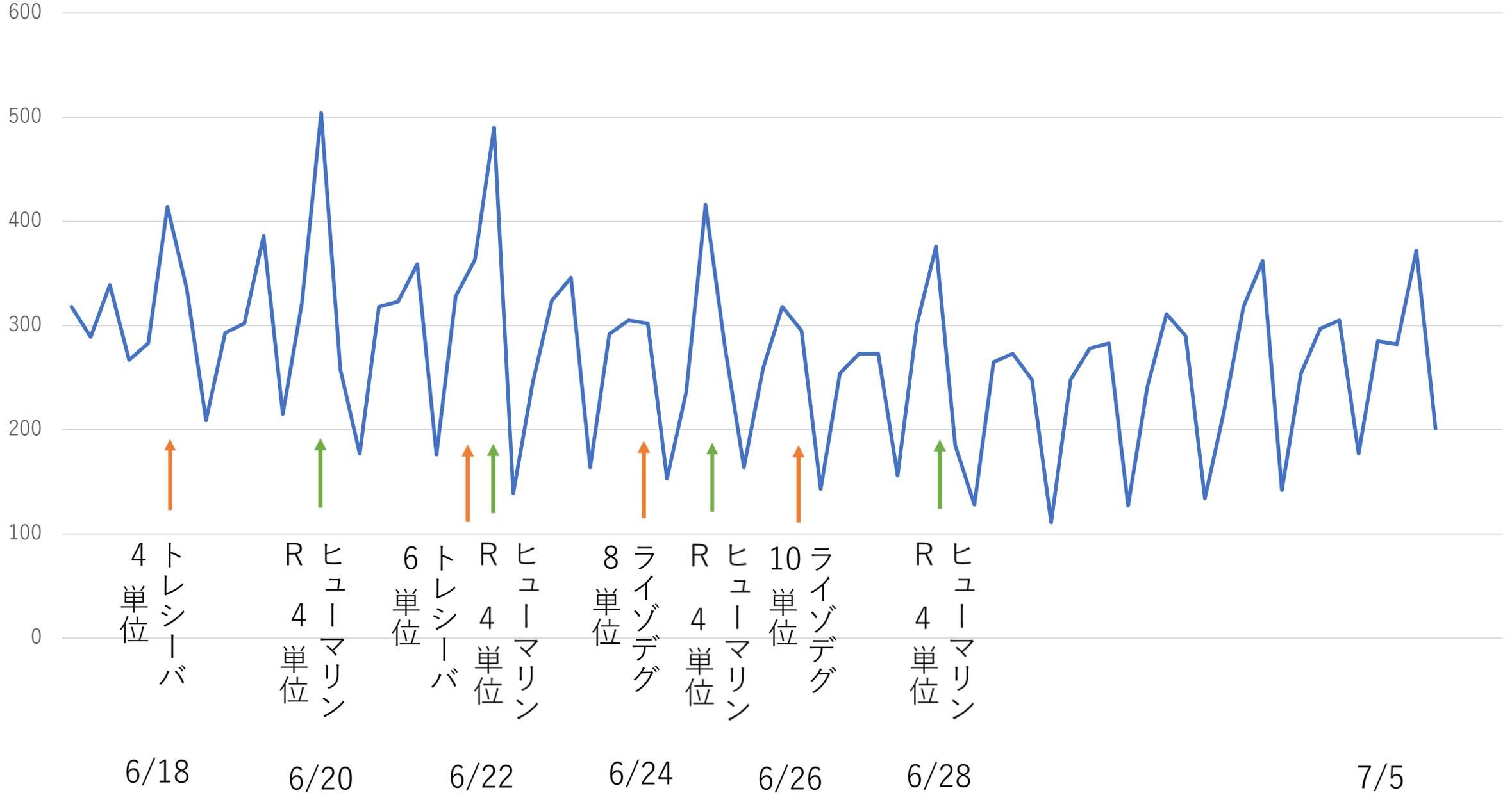
阪南中央病院・薬剤科 電話 072-333-2100

(mg/dL)

血糖値の変動

↑ 定期投与
(夕食前)

↑ 臨時投与



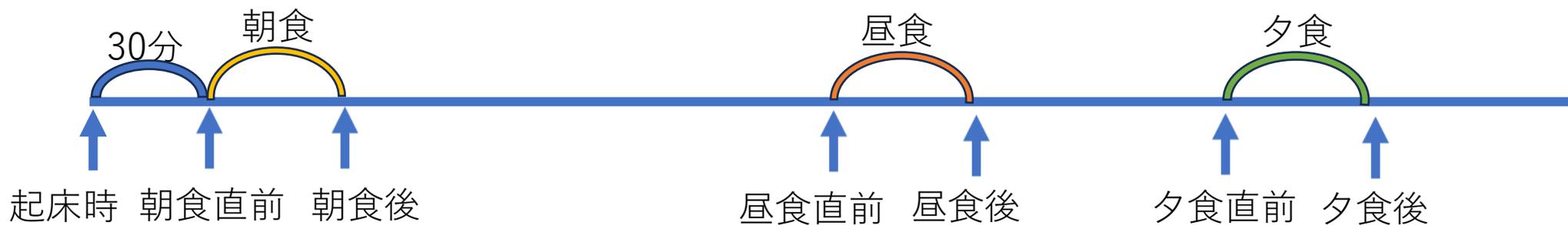
服用回数の変化

↑ 内服

↑ インスリン

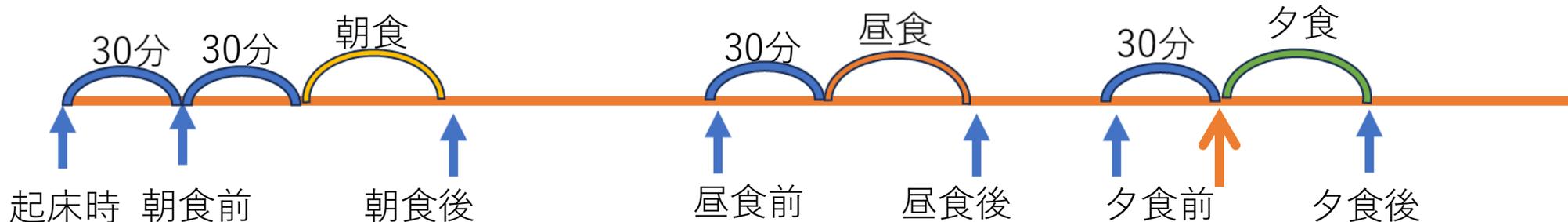
入院前

7回



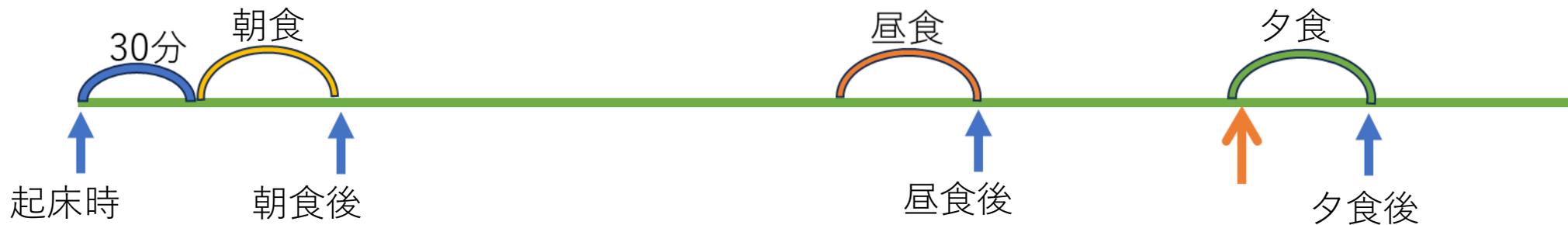
入院中

7回



退院時

4回



まとめ

・食前服用のエパルレスタットを食後に変更することで、服用回数を7回から4回へ減らすことができた。また、インスリンを導入することで、服用剤数を12剤から10剤に減り、内服薬の管理がしやすくなると思われる。退院後、自己管理できるように、服薬しやすい状態を考えることが大切であると知った

・退院時のお薬手帳ラベルに処方の変更点、一包化などの工夫点を記載しておくことでかかりつけ薬局にも把握してもらうことができることが分かった。また、病院薬剤師は退院後の患者さんの服薬状況を把握するのが難しいため、かかりつけ薬局から情報をフィードバックしてもらうことで、情報共有ができれば良いのではないかと思った

